

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

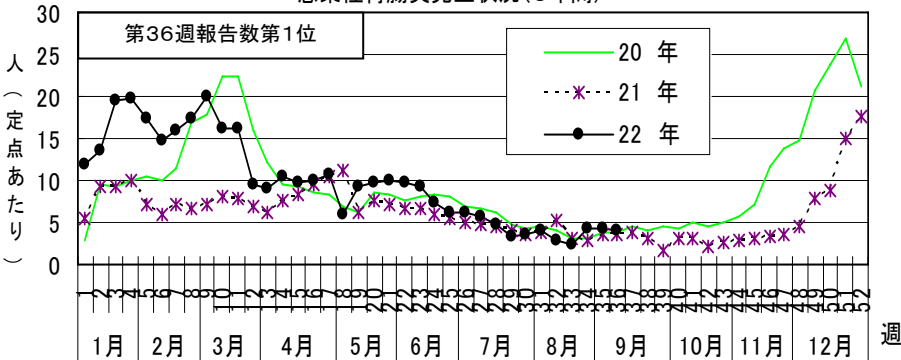


KAWASAKI CITY

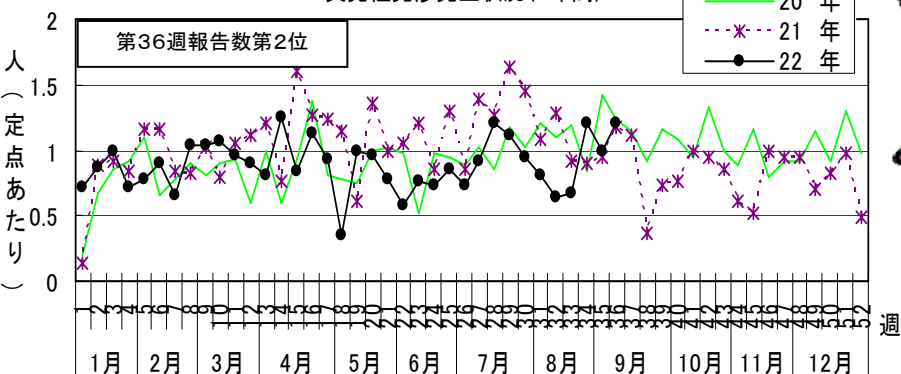
平成22年9月6日（月）～9月12日（日）〔平成22年第36週〕の感染症発生状況

第36週で報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)突発性発疹 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎は定点あたり4.06人と前週(4.30人)に比較して患者報告数は減少しています。また、その他の疾患についても、例年並みもしくはそれ以下の報告数となっており、特に目立った疾患はありませんでした。
 腸管出血性大腸菌感染症の届出が1件(感染経路:不明、推定感染地域:川崎市、血清型:O157、年齢:11歳)ありました。特に症状が出やすい小児や高齢者については、肉を食べるときには十分に加熱をしてください。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



突発性発疹発生状況(3年間)



～今から注意しておきたい感染症～2010秋冬

例年、秋から冬にかけて、次に示す3つの感染症の流行が目立ちます。特にRSウイルス感染症は乳幼児での発生が多いので注意が必要です。今から、感染症の特徴や予防方法を理解し、また予防接種を受けるなどして、感染症に負けないように準備しておきましょう。

①インフルエンザ

潜伏期間：1～7日間
 感染経路：主に直接飛沫感染
 症状：発熱・鼻水・咳・咽頭痛・頭痛など

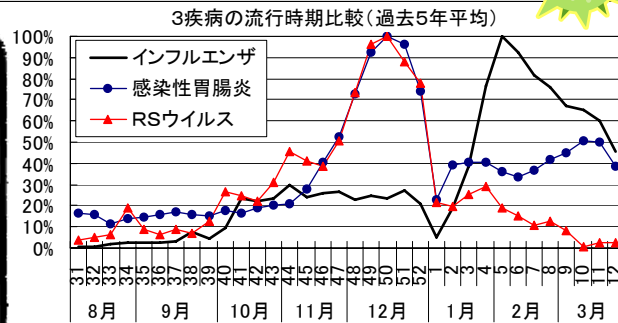
②RSウイルス感染症

潜伏期間：2～7日間
 感染経路：飛沫・接触感染
 症状：発熱・鼻水・咳、重症では喘鳴や呼吸困難など

③感染性胃腸炎(ノロウイルス等)

潜伏期間：1～2日間
 感染経路：主に糞口感染、飛沫感染もある。
 症状：吐き気、おう吐、下痢など

右のグラフは、上記3疾病の過去5年平均(17年から21年まで)の流行時期を表したものです。それぞれの疾病で最も報告が多かった週を100%としています。グラフを見ると、3疾病について9月末から増加傾向を示していることがわかります。感染性胃腸炎とRSウイルスは12月に、インフルエンザは1月から2月にかけてそれぞれ流行のピークがありますので、次に示す予防対策を今から準備しておきましょう。



これから注意したい感染症予防対策

予防接種

インフルエンザについては、昨年度流行した新型インフルエンザを含めたワクチン接種を受けることができます。

手洗い・うがい・マスク

これらは感染症対策の基本となります。特に冬はウイルスの飛沫感染が多くなる時期ですので、マスクの着用が有効です。感染症予防対策を徹底し、ウイルスに負けない過ごし方を実践しましょう。